

特別の教科道徳学習指導記録

令和3年5月15日（土）

第1学年

- 1 主題名 いきものにやさしく
- 2 資料名 つばめ（日本文教出版「生きる力」）
- 3 ねらい つばめを大切にしようとしている主人公の家族の様子から、身近な動植物に優しく接しようとする心情を高める。
- 4 本時の展開

	学習活動（○主な発問 ・児童の反応）	◇指導のねらい
導入	<p>○つばめをみたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・びょういんのぼうはんカメラのちかくにすをつくっていた。 ・プールの入り口のちかくでみた。 	<p>◇つばめを見た体験を聞き、絵などでイメージをわかせる。</p>
展開	<p>○お父さんはどんな気持ちで水たまりをつかったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たいへんだから、てつだってあげよう。 ・そだてやすくしてあげよう。 ・すをつくって、たまごがうめるように。 <p>○お母さんは、どんな気持ちでふん受けを作ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・したをとおるひとのことをかんがえた。 ・ふんがおちてよごれないように。 ・ひとにめいわくがかからないように、みまもってあげたい 	<p>◇お父さんは巣作りの材料をさりげなく用意していることに気づかせる。</p> <p>◇お母さんは、つばめが安心して子育てに集中できるように、周りの人が嫌がらないよう衛生にも気をつけているのだと気づかせる。</p>
終末	<p>○「わたし」は、どんなことを考えて「らいねんもきてね。」と言ったのでしょうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいい。またあいたい。 ・おおきくなっているかたのしみ。 ・またたのしくきてほしい。 ・ひなをうんでほしい。 	<p>◇飼うのではなく、そっと世話することの大切さに気づかせる。</p>

5 板書



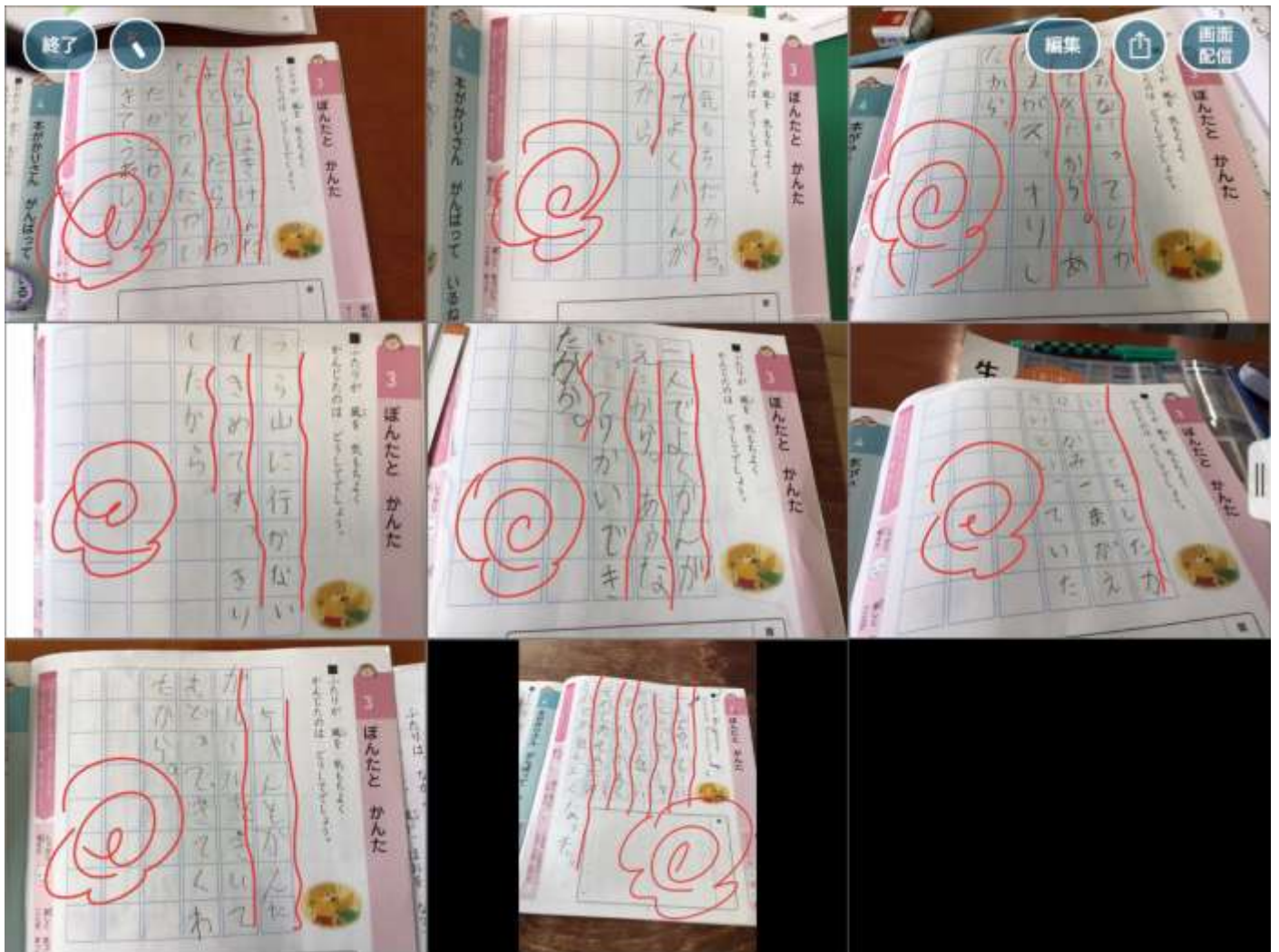
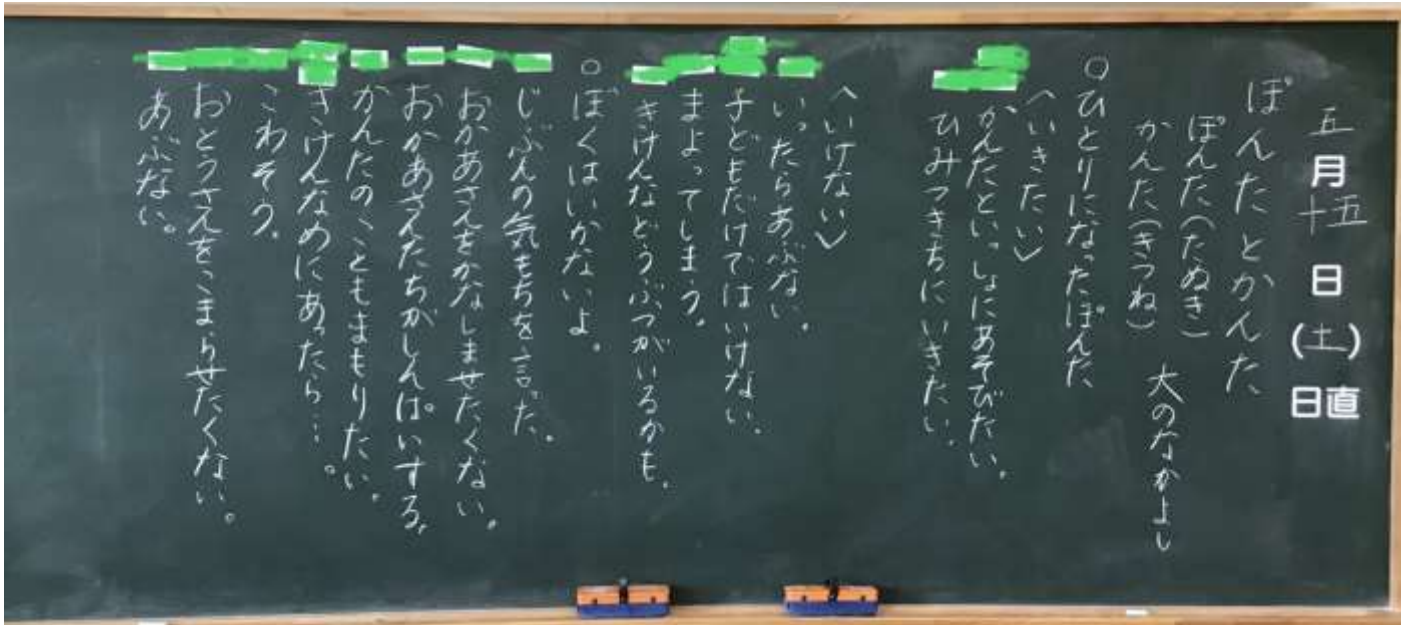
特別の教科道徳学習指導記録

令和3年5月15日（土）

第2学年

- 1 主題名 よいこととわるいこと
- 2 資料名 ぼんたとかんた（日本文教出版「生きる力」）
- 3 ねらい 友達からの誘いと約束とで迷いながらも、自分で「いけないことはしない」と決めることができたぼんたの気持ちを通して、自らよいと思うことを進んで行おうとする心情を育てる。
- 4 本時の展開

	学習活動（○主な発問 ・児童の反応）	◇指導のねらい
導入	<p>○してよいことと、してはいけないことで、どうしようか迷ったことを思い出しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の帰り友達から寄り道しようと誘われて迷った。 ・宿題があるのにゲームをやりたくて迷った。 ・学校で失敗したことを正直に言おうか迷った。 	<p>◇「してはいけないこと」とわかっているけど、どうしようか迷ってしまうことがあることを押さえる。</p>
展開	<p>○かんたが裏山に入り一人になったぼんたは、どんなことをじっと考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かんたと一緒に遊びたい。 ・危ないからやめよう。 ・きまりを破ったら叱られる。 <p>○ぼんたが「ぼくは行かないよ。」と大きな声で言ったのは、どんな気持ちからでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守らないといかない。 ・かんたも危ないからやめてほしい。 ・してはいけないことは、やっぱりしてはいけない。 <p>○ふたいが風を気持ちよく感じたのはどうしてでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼんたはやってはいけないことをしっかりと伝えられたから。 ・二人ともよいと思うことを自分で決められたから。 ・二人とも約束が守れたから。 ・心がすっきりとしたから。 	<p>◇ぼんたの一緒に遊びたい気持ちと我慢しようとする二つの気持ちがわかるように板書する。</p> <p>◇特に、ぼんたが自分で決めたということを押さえるようにする。</p> <p>◇よいと思うことを自分で進んで決めたときの、心が晴れた思いを考えられるようにする。</p>
終末	<p>○よいと思うことが進んでできたときのことを思い出してみましょ。どんな気持ちになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達から「通学路と違う道で帰ろう。」と言われたとき、断った。きまりが守れてよかった。 ・休み時間に早く遊びたくて廊下を走りたくなかったけど我慢した。学校のきまりを守ったのですっきりした。 	<p>◇善悪の判断をし、よいと思うことを進んで行うことについて、自分をしっかり振り返ることができるようにする。</p>



特別の教科道徳学習指導記録

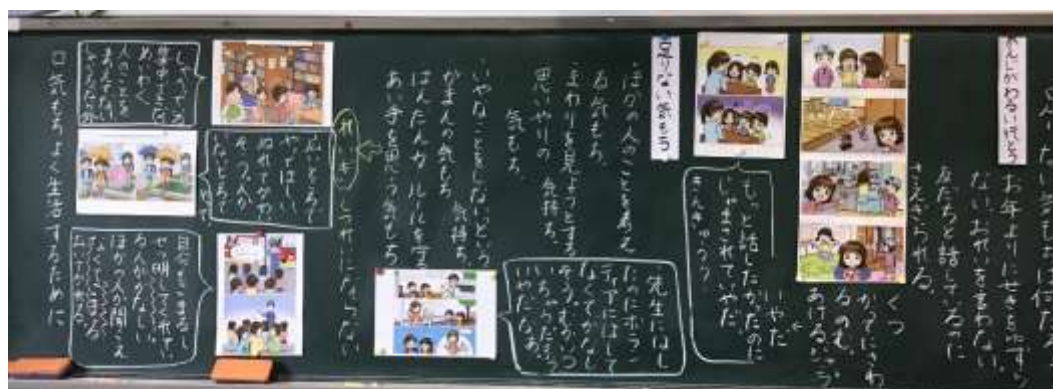
令和3年5月15日（土）

第3学年

- 1 主題名 おたがいに気持ちよく
- 2 資料名 足りない気持ちは何だろう（日本文教出版「生きる力」）
- 3 ねらい 各場面で何がたりないかを考える活動を通して、真心をもって礼儀正しく接しようとする態度を養う。
- 4 本時の展開

	学習活動（○主な発問 ・児童の反応）	◇指導のねらい
導入	<p>○「友達の家に行って」のイラストを見て、友達をよんだ女の子は、どんな気持ちになると思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いやな気持ち。 ・よばなければよかった。 	<p>◇自分勝手行動が相手をいやな気持ちにすることに気付かせ、本時の学習に取り組むきっかけを作る。</p>
展開	<p>○ほかのイラストを見て、よくないところを見つけよう。</p> <p>（教室で）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話に割り込んでいる。 <p>（図書室で）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話している。 <p>（通学路で）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生には挨拶しているけれど、ボランティアの人には挨拶していない。 <p>（雨の日に）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傘を開くときに、水が友達にかかっている。 <p>○どの場面にも言える、足りない気持ちは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・礼儀正しくする。 ・相手の気持ちを考える。 	<p>◇身近な場面が多いので、自分たちにもあり得ることと捉えながら考えさせていく。</p> <p>◇イラストから、よくないところが容易に見つけられると考えるので、多く児童の発言に機会を与えたい。</p> <p>◇児童の発言を板書に残し、そこから共通の足りない気持ちを考えさせる。</p>
終末	<p>○これから、どんなことに気を付けて生活しようと思いますか。</p>	<p>◇自分にすべき行動、改善すべき行動を考えさせて、自分の生活し生かせるようにする。</p>

5 板書



特別の教科道徳学習指導記録

令和3年5月17日（土）

第4学年

- 1 主題名 すべての命を大切に
- 2 資料名 ヒキガエルとロバ（日本文教出版「小学道徳 生きる力 4」）
- 3 ねらい ヒキガエルをいじめることを楽しんでたアドルフたちの反省を通して、すべての生き物の命を大切にしようとする態度を養う。
- 4 本時の展開

	学習活動（○主な発問 ・児童の反応）	◇指導のねらい
導入	<p>○生き物を飼っているとき、どのような気持ちになりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいい。 ・元気に育ててほしい。 	<p>◇身近な生き物に目を向けさせ、命あるものについて考えていくという課題意識をもたせる。</p>
展開	<p>○子供たちは、どのような気持ちでヒキガエルに石をぶつけていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石が命中したらおもしろそうだな。 ・急に飛び出して来てびっくりさせるなよ。 <p>○ロバは、どのような気持ちでヒキガエルのいるくぼみ避けて通ろうとしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいそうに。引いたりしないから大丈夫だよ。 ・大切な命だから守らなければいけない。 <p>○ヒキガエルとロバの姿をいつまでも眺めていた子供たちは、どんな思いで立っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕たちは、ひどいことをしてしまった。 ・ロバは疲れていても、力をふりしぼってヒキガエルの命を守ろうとした。 ・ヒキガエルもロバも一生懸命生きている。 	<p>◇ふざけ半分で命の尊さに気付かず、ヒキガエルに石を投げつけていたアドルフたちの気持ちに気付かせる。</p> <p>◇苦しい立場にありながら、ヒキガエルを助けようとするロバの気持ちを考えさせる。</p> <p>◇ロバがヒキガエルの命を重んじ、守ろうとした心情から、ねらいとする指導内容の理解を深めさせる。</p> <p>◇生き物の命の大切さに気付いた子供たちの気持ちに共感させるようにする。</p>
終末	<p>○身の回りの命を大切にするために、あなたができることは、どのようなことでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の世話をしっかりとし命を守る。 ・自分勝手な行動で命を粗末にしない。 ・どんな命も大切にする。 	<p>◇導入でつかんだ課題に振り返り、じっくり自分を振り返らせる。</p> <p>◇生き物の命の尊さを実感した教師の体験を話す。</p>

5 板書



特別の教科道徳学習指導記録

令和3年5月15日（土）

第5学年

- 1 主題名 たいせつなきまり
- 2 資料名 通学路（日本文教出版「生きる力」）
- 3 ねらい 通っては行けない駐車場を横切り、転んで後悔する「わたし」の気持ちや思いに共感し、きまりの意義を考えることを通して、進んできまりを守ろうとする態度を養う。
- 4 本時の展開

	学習活動（○主な発問 ・児童の反応）	◇指導のねらい
導入	<p>通学路が学校のきまりであることを知る。</p> <p>○通学路が決められているのはどうしてでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るくて広い道だから。 ・安全だから。 ・犯罪に巻き込まれないため。 	<p>◇きまりとその意義について考えようとする意欲を高める。</p>
展開	<p>教材「通学路」を読んで考え、話し合う。</p> <p>○あなたが「私」だったら駐車場を横切りますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横切る →気を付ければ大丈夫。 →ピアノのレッスンに遅れてはいけない。 ・横切らない→危ないから。 →急いでいても、命には代えられない。 <p>○「わたし」のとした行動は、どこが「問題」なのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路を守らなかったこと。 ・スーパーの利用客や車の運転手に迷惑をかけたこと。 	<p>◇普段の登下校を想起させ、自分だったらどうするか、素直に考えられるようにする。</p> <p>◇「わたし」のとした行動を批判的に捉えさせ、きまりを守ることの必要性を共有する。</p>
終末	<p>「きまり」に関わる自分の思いや考えを振り返る。</p> <p>○何のためにきまりを守るのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のため。 ・家族や友達、周りの人に迷惑を掛けないため。 	<p>◇きまりを守ることについて、自分なりの考えをもてるようにする。</p>

5 板書

<p>○「わたし」のとした行動は、 どこが問題なのでしょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路を守らなかったこと ・利用客に迷惑をかけたこと <p>○何のためにきまりを守るのですか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のため ・家族や友達に迷惑を掛けないため 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p>横切って転んだ 場面の絵</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・横切らない ・危ないから ・命には代えられないから 	<p>○あなたが「わたし」だったら、駐車場を横切る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気を付ければ大丈夫 ・ピアノのレッスンに遅れてはいけない <p>○通学路が決められているのはなぜ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るくて広い道だから ・安全だから ・犯罪に巻き込まれないため
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

特別の教科道徳学習指導記録

令和3年5月15日（土）

第6学年

- 1 主題名 たいせつな生活リズム
- 2 資料名 カスミと携帯電話（日本文教出版「生きる力」）
- 3 ねらい 携帯電話のけじめのない使い方によって生活リズムが狂ってしまうことを知り、自分の生活習慣を見つめ直し、節度を守って生活しようとする態度を養う。
- 4 本時の展開

	学習活動（○主な発問 ・児童の反応）	◇指導のねらい
導入	○携帯電話のイメージについて考える。 ◎携帯電話を使っのての良くない点について考える。	◇携帯電話が便利で、楽しい物だ というイメージを共有させる。 ◇携帯電話でのトラブルなどにつ いて考えさせる。
展開	○本文「カスミと携帯電話」を読み、文章の中での登場人 物の気持ちを考える。 ○カスミのお母さんの「あなたにはまだ早い」の意味につ いて考える。 ・健康第一で使えないから。 ・自分で判断できていないから。	◇カスミさんが携帯電話を、節度 を守って使えなかった理由が、 いつ連絡をやめたらいいか分か らないという理由が、誰にでも 起こりうる理由であることに気 付かせる。
終末	○今後、自分が携帯電話を持つときにどんなことに気を付け たらいいか考える。 ・ルールを守りながら使っていく ・自分で判断できるようになるまでは持たない方がいい ・健康を大切にしてい	◇中学生や高校生、大人でも携帯 電話を使いすぎてしまう人がい ることを伝え、改めて自制する ことの難しさについて気付かせ る。

5 板書

カスミと携帯電話

◎便利・面白い・楽しい・
人とやりとりができる
△目が悪くなる・さぎにあう
使いすぎてしまう

○レイナが帰る時のカスミ

- ・レイナがかわいそう
- ・自分のせいだ
- ・自分も同じ目にあっていたかもしれない
- ・レイナにやめようと言えればよかった

○お母さんに携帯電話を返したカスミ

- ・レイナと同じ目にあわないようにしたい
- ・自分できちんと使えていない
- ・自分の健康を一番に考えたい

○携帯電話とどう付き合っていくべきか

- ・時間を決めて使う
- ・ルールを守る
- ・親に管理してもらおう
- ・自分の意志をしっかりと